

授して居る、支那の書物を習つて居るけれども、胡語を用ゐて居るといふことが書いてあります、前に申しましたやうに高昌の國は唐代にウイグルの根據地になつたのでありますけれども、南北朝から隋にかけて時代は此處には麴氏キョクと云ふ漢人の王が居つて、漢人が其の地方に居りますと共に、前から此の地方に居つた柔然であるとか、突厥であるとか高車であるとか、鐵勒であるとかいふやうな土耳其族が漢人と雜居して居つたので、此の北史に書いてあることは、ラクーペリー氏の考の如く、ウイグル人の事を記したものと見る譯には參りませぬ、若し北史の記事を公平に解釋して見るならば、是はウイグルではない胡族（……といつても土耳其族でございませうが）が、ウイグル文字でない一種の字を有つて居つて、それで色々な物を書いたり譯したりして居つたものであると云ふ風に考へなければならぬだらうと思ひます、それでウイグル族でない所の土耳其族の高昌の地で信じて居つた佛教と、支那の佛教との關係に付ては、餘程考へて見るべきものでございませうが、今日は、問題の範圍外でありますから申しませぬ。

今日こんな風になつて（回鶻文佛典を示す）出ますウイグル文の佛典は、どう云ふ字で書いてあるかと云ふと、皆ウイグル文字であります、他の文字で書いたウイグル語の佛典と云ふものは今日まで現はれて居りませぬ、さうすると、ここで一つ考へて見なければならぬことがある、一體ウイグル文字でのみ此佛典が書かれて居るならばウイグル文字は何時出來たものであらうか、文字の出來た時代を知ることが、また其の佛典の研究について關係が少くない次第であります。從來此のウイグル文字と云ふものは、先程ラクーペリー氏の説を紹介しましたやうに、景教徒ネストルの手に依つてシリヤの文字から作られたと考へて居たのでありますけれども、今日では全く間違つて居たこ